

「高度メディア社会の生活情報技術」

平成 13 年度採択研究代表者

高野 明彦

(国立情報学研究所 教授)

「連想に基づく情報空間との対話技術」

1. 研究実施の概要

本研究の目的は、「連想の情報学」の基礎研究を行い、文書情報空間に奥行きと安心感を与える対話技術を構築することである。本研究は5年計画で実施する予定であり、最終的には、ユーザーが理解度に応じて平易な入門的解説から高度な専門的記述までを自在に渡り歩く手段を提供し、電子化された情報空間での新しい「読書環境」の実現を目指す。研究成果は、多様な書籍コンテンツに適用して有効性や実用性を評価する。

昨年度までに、汎用連想計算エンジン GETA を活用した連想検索機能を発展させ、複数の異なるデータベース間での連想的探索を支援する技術を追究し研究を進めてきた。それらの研究成果を活用して、文化庁・総務省が運営する「文化遺産オンライン（試行版）」(<http://bunka.nii.ac.jp/>)のシステム構築を行い、さらに、テーマによる本選びを支援する「新書マップ」(<http://shinshomap.info/>)というサービスを公開した。これらの情報サービスは新しいスタイルの情報提供サイトとして広く使われている。

本年度は、上記の情報サービスに他の同種の情報サービスとの連想的連携を可能にする Web サービスのインタフェースを実装した。この Web サービス機能を活用して、連想検索機能をもつ複数の情報サービスを動的に融合して提示する新しいユーザインタフェースのプロトタイプを作成した。

また、古書店 170 店を擁する世界一の本の街、神田神保町の古書店連盟の全面的な協力を得て、神田神保町のオフィシャルポータルサイト「Book Town じんぼう」(<http://jimhou.info/>)を立ち上げた。個々の古書店の紹介ページ、古書店の在庫情報を一括して連想検索可能な古書データベース、得意分野からお目当ての古書店を探して地図に表示するジンボウナビなどの機能を備えている。神田神保町にある膨大な知的資源への案内役として、多くのユーザーに支持され、人気サービスとして定着しつつある。

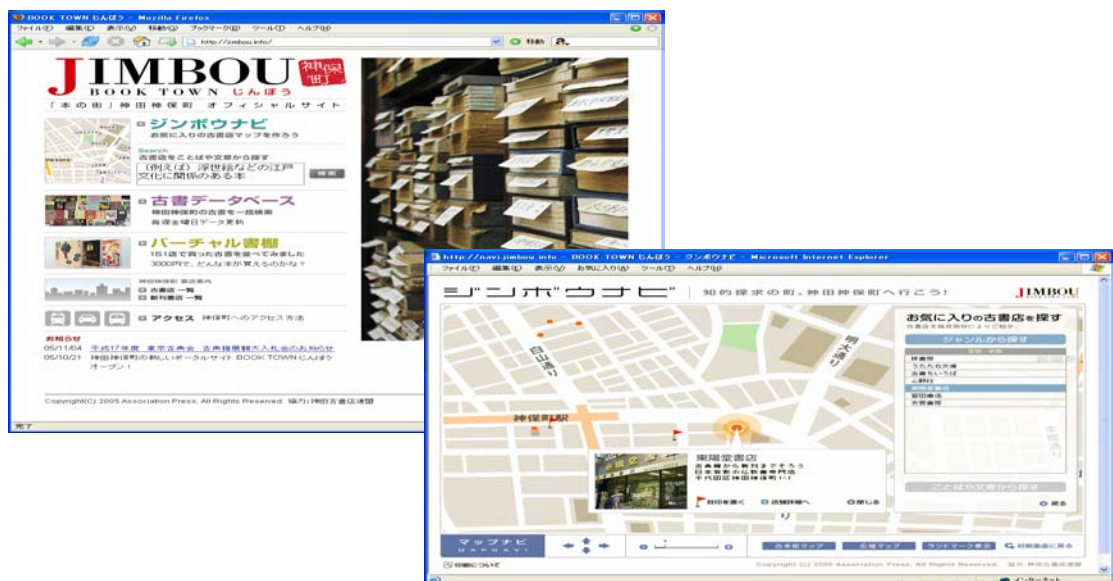
2007 年春にリニューアル予定の新千代田図書館での公開を念頭に、これまで我々が立ち上げてきた Webcat Plus、新書マップ、文化遺産オンライン、Book Town じんぼう等の情報サービスをうまく連携させた新しいリファレンスサービス方式について検討した。

2. 研究実施内容

本年度は、GETA を利用して立ち上げてきた情報サービスに、他の同種の情報サービスとの連想的連携を可能にする Web サービスのインタフェースを実装した。この Web サービス機能とは、各サービスの基本機能を、個別の GUI からではなく、より標準的な XML 形式のデータのやり取りによっても利用できるようにするものである。これにより、連想検索機能をもつ複数の情報サービスを動的に融合して活用することが可能になる。この Web サービス機能を AJAX と呼ばれる新しい GUI 構築技術と組合わせて、複数のデータベースを動的に組合わせて提示するユーザインタフェースのプロトタイプを作成した。

神田神保町は古書店 170 店、新刊書店 30 店、多くの出版社を擁する世界一の本の街である。その神田神保町の古書店連盟の全面的な協力を得て、神田神保町のオフィシャルポータルサイト「Book Town じんぼう」(<http://jimbou.info/>)を立ち上げた。個々の古書店の紹介ページ、古書店の在庫情報を一括して連想検索可能な古書データベース、各書店の得意分野からお目当ての古書店を探して地図に表示するジンボウナビなどの機能を備えている。新書マップでは、新書・選書といういわば入門的な書物を対象にして、読書の起点を提供するサービスを目指した。これに対して、Book Town じんぼうでは、江戸期以前からの書物 1000 万冊を在庫している神田神保町の奥深さを味わえる情報サービスを目指した。神田神保町にある膨大な知的資源への案内役として、多くのユーザに支持されて、人気サービスとして定着しつつある。現在は古書店だけを対象としているが、今後は地域の新聞書店や公共図書館、大学図書館との連携を進める予定である。

図書館との連携の試みの一つとして、2007 年春にリニューアル予定の新千代田図書館での公開を念頭に、これまで我々が立ち上げてきた Webcat Plus、新書マップ、文化遺産オンライン、Book Town じんぼう等の情報サービスをうまく連携させた新しいリファレンスサービス方式について検討した。千代田図書館が神田神保町のインフォメーションセンターとしての役割を担えるように、実用的な情報システムの構築方法を検討した。





3. 研究実施体制

「連想の情報学構築」グループ

- ①研究分担グループ長：高野 明彦（国立情報学研究所、教授）
- ②研究項目：連想の情報学の基盤技術の研究

「共通実験環境整備」グループ

- ①研究分担グループ長：丹羽 芳樹（日立製作所、主管研究員）
- ②研究項目：連想共通実験環境の整備

4. 主な研究成果の発表

(1) 論文（原著論文）発表

- 高野明彦「バイオ・情報の最前線」, 丸善ライブラリー情報研シリーズ5(分担執筆), 2005.5.
- 高野明彦「古書の街、神保町で、本の未来を考える」, 「情報と文化」2005 年夏号, 新潟日報社, 2005.6.
- 高野明彦「『連想』で本の未来は開けるか」, 「出版情報」2005 年 9 月号, 講談社, 2005.9.
- 高野明彦「インターネットで詩心を育てる」, 「情報と文化」2005 年冬号, 新潟日報社, 2005.12.
- 高野明彦「本のデジタル化は我々に何をもたらすか」, 文部科学時報, 2006.2.